

郡家遺跡第85次

発掘調査報告書

2011

神戸市教育委員会

郡家遺跡第85次  
発掘調査報告書

2011

神戸市教育委員会

## 序

今回の調査地である御影は神戸市東部の六甲山南麓に所在し、住宅地として開発が進み、今では閑静な住宅街になっています。

ここ郡家の地は、古来、地名から「摂津国菟原郡衙」の推定地と云われてきましたが、郡衙と断定できる建物址は未だ発見されていません。しかし、発掘調査の結果、奈良時代から平安時代の建物址は数多く見つかるなど、当時のことが判つてきました。

また、多くの調査により弥生時代後期から人々がこの地で生活を始めたことが判り、現在まで連綿と生活が営まれています。

今回の発掘調査の成果をまとめました本報告書が地域の歴史研究、或は文化財の保護・普及啓発の資料として、市民の皆様をはじめ、多くの方々に広くご活用いただければ幸いです。

最後にはなりましたが、発掘調査ならびにこの報告書の作成にご協力いただきました事業主である神鋼不動産株式会社ならびに関係諸機関に対し、厚くお礼申し上げます。

平成23年3月  
神戸市教育委員会

## 例　　言

1. 本書は、神戸市東灘区御影町御影字城ノ前1427番2で実施した共同住宅建設に伴う郡家遺跡第85次調査の発掘調査報告書である。
2. この調査は、神戸市教育委員会が株式会社島川組からの委託を受けて、現地調査を平成21年10月26日から平成21年12月18日にかけて実施したものである。調査対象面積は約510m<sup>2</sup>（延べ1,000m<sup>2</sup>）である。
3. 現地での調査は神戸市教育委員会学芸員井尻　格が担当した。遺物整理は学芸員黒田恭正、佐伯二郎（平成21年度）、西岡誠司（平成22年度）が行った。本書の作成は井尻が行った。
4. 現地での遺構写真撮影は井尻が行った。出土遺物の写真撮影は、神戸市埋蔵文化財センターにおいて、西大寺フォトの杉本和樹氏が行った。
5. 本書に掲載した位置図は、国土地理院発行の25,000分の1の地形図「西宮」・「神戸首部」の一部及び、神戸市発行の2,500分の1の地形図「住吉」・「六甲」の一部、明治18年測量仮製図「神戸」『明治前期・昭和前期　神戸都市地図』柏書房を使用した。
6. 本書に使用した方位・座標は平面直角座標系第V系（世界測地系）で、標高は東京湾中等潮位（T.P.）で表示した。
7. 神戸市西区に所在する神戸市埋蔵文化財センターにおいて出土遺物の水洗・接合・復元作業を行い、併せて発掘調査報告書の作成をおこなった。
8. 本書に関わる出土遺物及び図面等の記録類は、神戸市埋蔵文化財センターに保管している。
9. 発掘調査の実施ならびに本書の刊行に際しては、共同住宅建設の事業主である神鋼不動産株式会社に多大なるご協力を頂いた、記して御礼を申し上げます。

## 目　　次

### 序

### 例言

### I. はじめに

1. 郡家遺跡の位置と環境 .....	1
2. 歴史的環境～周辺の主要な遺跡～ .....	3
3. 郡家遺跡における発掘調査 .....	6
4. 第85次調査の経緯と経過 .....	11

### II. 調査の結果

1. 基本層序 .....	13
2. 遺構の概要 .....	15

### III. まとめ（集落の変遷） .....

25

### 報告書抄録

## 図 版 目 次

図 1	郡家遺跡の位置	1
図 2	周辺の主な遺跡分布図	2
図 3	調査地周辺の旧地形図	5
図 4	郡家遺跡調査位置図	7
図 5	調査区設定図	12
図 6	1・2区北壁及び東壁土層断面図	14
図 7	洪水砂出土遺物実測図	15
図 8	第1遺構面平面図	16
図 9	SB101出土遺物実測図	17
図10	SB101遺構平面図	18
図11	黒褐色シルト層出土遺物実測図	19
図12	第2遺構面平面図	20
図13	SR201出土・遺物平・断面図	21
図14	SR201出土遺物実測図	22
表 1	郡家遺跡既往調査一覧表(1)	8
表 2	郡家遺跡既往調査一覧表(2)	9

## 写 真 目 次

写真 1	郡家遺跡遠景（東上空から望む）	
写真 2	調査地近景	12
写真 3	重機掘削風景	12
写真 4	遺物整理作業風景	12
写真 5	調査区東壁土層断面	13
写真 6	調査区西壁土層断面	13
写真 7	2・1区地割れ検出状況	15
写真 8	SB101検出状況	18
写真 9	牛駒西麓座弥生土器	23
写真10	調査作業風景	24
写真11	区画整理以前の御影周辺	26

## 写真図版目次

- 写真図版 1 1区・2-1区 第1遺構面全景（西から）  
1区・2-1区 第2遺構面全景（南西から）
- 写真図版 2 1区北側拡張区 第1遺構面（南西から）  
SB101: SP101（南から）  
SB101: SP103（南から）  
SB101: SP104（南から）  
SB101: SP106（西から）
- 写真図版 3 2-2区 第1遺構面全景（東から）  
2-2区 第1遺構面全景（北から）
- 写真図版 4 2-2区 第2遺構面全景（東から）  
2-2区 第2遺構面全景（北から）
- 写真図版 5 SR201弥生土器出土状況（南から）  
SK201土層断面（南から）
- 写真図版 6 3区 第1遺構面全景（東から）  
3区 第2遺構面全景（東から）
- 写真図版 7 SB101出土遺物  
黒褐色シルト層出土遺物
- 写真図版 8 SR201出土遺物(1)
- 写真図版 9 SR201出土遺物(2)



写真1 郡家遺跡遠景（東上空から望む） 昭和50年代の航空写真

## I. はじめに

### 1. 郡家遺跡の位置と環境

郡家遺跡は、神戸市東灘区御影町御影、御影町郡家、御影中町を中心とした遺跡である。昭和54年度に大蔵地区において初めて遺跡の調査（郡家大蔵遺跡第1次）が開始された。今日まで数十回にもわたる試掘調査・発掘調査により東西約800m、南北約1kmの広範囲に及ぶ弥生時代後期から中世までの集落遺跡であることが判明している。

### 地理的位置

郡家遺跡の所在する神戸市東灘区は、兵庫県南東部に位置し、市域中央部を東西約30kmの長さをもつ六甲山地によって南北に分断されている。遺跡は、六甲山麓の南側を流れる石屋川と住吉川により形成された複合扇状地の傾斜地形に展開し、標高13mの扇状地から標高43mの段丘面上に立地している。

現在では、市街地化が進み以前の景観が変わっているが、明治18年測量の仮製地形図（図3）を概観してみると周囲には村が点在しているもの調査地周辺は水田などの耕作地が広がっていたことが分かる。このことは発掘調査の成果でも窺い知ることができ、中世以降は村落を形成しつつも水田化されていたことが分かってきている。

### 地形環境

郡家遺跡周辺の地形環境は、六甲山麓を構成している未固結な淡水成堆積物と海成堆積物の砂礫や粘土からなる大阪層群が存在している。この土質は非常に崩壊しやすいことが特徴で、六甲山南麓を流れる河川の出水時には土石流を伴うことが多く、扇状地を広い範囲に形成している。<sup>(1)</sup>住吉川と石屋川が中世以降に現在の位置に固定されるまでは、土石流が頻繁に発生していたことが推測できる。



図1 郡家遺跡の位置

1.はじめに



図2 周辺の主な遺跡分布図 (Scale1 : 25,000)

## 2. 歴史的環境～周辺の主な遺跡～

郡家遺跡の立地する神戸市の東部では、六甲山南麓から流れる住吉川、石屋川やその他小河川に沿って旧石器時代から近世に至るまでの多くの遺跡が立地しているほど遺跡の密集度が高い地域でもある。

### 旧石器時代

この時期に該当する遺跡は少なく、岡本北遺跡<sup>(2)</sup>と隣接する西岡本遺跡<sup>(3)</sup>でナイフ型石器が出土し、有茎尖頭器を採取した滝ノ奥遺跡<sup>(4)</sup>が知られている程度である。

### 縄文時代

縄文時代早期の遺跡でもある西岡本遺跡<sup>(5)</sup>では、高山寺式の押型文土器を伴う堅穴住居址 2 棟を確認している。郡家遺跡御影中町地区<sup>(6)</sup>の土坑からは高山寺式土器が出土している。また、丘陵上の中新田遺跡<sup>(7)</sup>では、石鎌や弦状耳飾など前期と推定される遺物が採集されている。標高 3 m の沖積低地に立地する本庄町遺跡<sup>(8)</sup>は、縄文時代後期の貯蔵穴を数基確認し、砂堆上に立地する集落址と考えられる。

### 弥生時代

臨海部の砂堆上に広がる縄文時代後期から弥生時代前期に続く集落址である北青木遺跡<sup>(9)</sup>は、後背湿地に水田が営まれている。そして、臨海部に面した砂堆上で四区袈裟襟文銅鐸<sup>(10)</sup>が出土している。また、本庄町遺跡<sup>(11)</sup>では前期末の水田遺構が確認されている。扇状地末端部に広がる本山遺跡<sup>(12)</sup>では前期前半の流路が確認され、近畿地方最古段階に属する土器や農耕具である木製品が出土している。中期から後期にかけては六甲山丘陵上<sup>(13)</sup>の標高 100m 以上の高地には会下山遺跡<sup>(14)</sup>、金鳥山遺跡<sup>(15)</sup>のような高地性集落が営まれ、祭祀遺跡である保久良神社遺跡<sup>(16)</sup>などもある。一方、低地の深江北町遺跡<sup>(17)</sup>では中期前半から集落が営まれ、円形周溝墓が築かれている。丘陵上に広がる森北町遺跡<sup>(18)</sup>では中期～後期の方形周溝墓や前漢鏡を確認している。

### 古墳時代

前期では海岸線に沿って大型の古墳が築かれるようになる。東部から順に、円墳と推定される芦屋市の阿保親王塚古墳<sup>(19)</sup>、前方後円墳の東求女塚古墳<sup>(20)</sup>、前方後方墳の処女塚古墳<sup>(21)</sup>・西求女塚古墳<sup>(22)</sup>が造られる。また、段丘上では前方後円墳の扁保曾塚古墳<sup>(23)</sup>が知られている。

中期になると住吉宮町遺跡内では坊ヶ塚古墳<sup>(24)</sup>や帆立貝式古墳の住吉東古墳<sup>(25)</sup>のような盟主的古墳が造営され方墳群を形成している。

後期以降には段丘上に小規模な古墳が密集して築かれるようになる。御影山手遺跡<sup>(26)</sup>で確認された古墳群や岡本梅林古墳<sup>(27)</sup>・西岡本遺跡<sup>(28)</sup>に見られるような横穴式石室を土体とする群集墳が出現する。本米、芦屋市の山麓部から東灘区の段丘上には横穴式石室を持つ古墳が多数存在していたと思われるが、宅地化などにより消滅したものも少なくない。

### 奈良・平安時代

深江北町遺跡<sup>(29)</sup>からは、「驛」と書かれた墨書き土器、承和の年号が記された木簡、円面硃、帶金貝などが出土し、また、同時期の掘立柱建物が検出されていることから、古代山陽道草履駅家跡の最有力地とされている。同じ遺跡の性格を持つ芦屋市津知遺跡<sup>(30)</sup>でも大型の掘立柱建物、皇朝錢、円面硃など官衙的色彩の強いものが出土している。住吉宮町遺跡<sup>(31)</sup>では、掘立柱建物や井戸などが見つかり十馬や「橘東家」「免」と書かれた墨書き土器が出上している。郡家遺跡でも規格性のある大型掘形を持つ掘立柱建物が出現してきている。

**中世**

中世になると、平野部から段丘上までの広範囲にわたり集落が展開している。住吉宮町遺跡、郡家遺跡、徳井町遺跡では掘立柱建物が確認され一村落を形成していた。

**近世**

江戸時代中期になると沿岸部においては地の利を生かし酒造業が興隆し、灘五郷を構成する魚崎郷古酒蔵群<sup>(31)</sup>、御影郷古酒蔵群<sup>(32)</sup>、西郷古酒蔵群が構成される。山麓部においては、住吉川上流域水車群<sup>(33)</sup>に見られるように六甲山麓から流れ出る水流を利用した水車精米や搾油業が盛行している。

**註**

- (1) 高橋学「芦屋川・住吉川流域の地形環境Ⅰ」「北青木遺跡」 兵庫県教育委員会 1986  
高橋学「芦屋川・住吉川流域の地形環境Ⅱ」「小路大町遺跡発掘調査報告書」 兵庫県教育委員会 1987
- 高橋学「芦屋川・住吉川流域の地形環境Ⅲ」「深江北町遺跡」 兵庫県教育委員会 1988
- 高橋学「郡家遺跡・御影中学校地区の地形環境」「郡家遺跡 御影中町地区第3次調査概報」 神戸市教育委員会 1990
- (2) 浅岡俊夫編『神戸市東灘区岡本北遺跡』 六甲山麓遺跡調査会 1992
- (3) 浅岡俊夫編『神戸市東灘区西岡木遺跡』 六甲山麓遺跡調査会 2001
- (4) 森田稔「灘ノ原遺跡」「昭和56年度神戸市埋蔵文化財年報」 神戸市教育委員会 1983
- (5) 計3に同じ
- (6) 伊野博史・木崎稔「郡家遺跡 御影中町地区第3次調査概報」 神戸市教育委員会 1990
- (7) 新修神戸市史編集委員会編『灘文人のくらし』『新修神戸市史』歴史編Ⅰ 自然・考古 1989
- (8) 别府洋二編『本庄村遺跡』兵庫県文化財課発行報告第92冊 兵庫県教育委員会 1991
- (9) 小川良太・山下史朗「北青木遺跡」兵庫県文化財調査報告第36冊 兵庫県教育委員会 1986  
菅本宏明・石萬三「北青木遺跡発掘調査報告書－第3次－」 神戸市教育委員会 1999
- (10) 東喜代秀「北青木遺跡第5次調査」「平成18年度神戸市埋蔵文化財年報」 神戸市教育委員会 2009
- (11) 片岡 雄編『神戸市東灘区 本庄村遺跡発掘調査報告書』 財団法人古代学協会 1985
- (12) 安田滋「木山遺跡第17次調査」「平成7年度神戸市埋蔵文化財年報」 神戸市教育委員会 1998
- (13) 川村行弘・石野博之・森岡秀人「増補 今山遺跡」奈良町新社 1985
- (14) 新修神戸市史編集委員会編『金鳥山遺跡』『新修神戸市史』歴史編Ⅰ 自然・考古 1989
- (15) 新修神戸市史編集委員会編『保久良治神社遺跡』『新修神戸市史』歴史編Ⅰ 自然・考古 1989
- (16) 山下史朗編『津江北町遺跡』 兵庫県教育委員会 1988
- (17) 黒田恭正「森北町遺跡」「昭和60年度神戸市埋蔵文化財年報」 神戸市教育委員会 1988
- (18) 森岡秀人「阿保親王塚古墳」「長岸県史」考古資料編 1992
- (19) 渡辺伸行「東求塚古墳」「昭和57年度神戸市埋蔵文化財年報」 神戸市教育委員会 1985
- (20) 神戸市教育委員会編『史跡丸女塚古墳』 1985
- (21) 安田滋編『西求女塚古墳発掘調査報告書』 神戸市教育委員会 2004
- (22) 新修神戸市史編集委員会編『ヘボン塚』『新修神戸市史』歴史編Ⅰ 自然・考古 1989
- (23) 渡辺伸行「坊ヶ塚遺跡（住吉宮町遺跡群Ⅱ）」 兵庫県教育委員会 1990
- (24) 斎治康明・東喜代秀「住吉宮町遺跡第9次調査」「昭和63年度神戸市埋蔵文化財年報」 神戸市教育委員会 1994
- (25) 関野豊『御影山手遺跡第2次発掘調査概報』 神戸市教育委員会 2006
- (26) 吉井良秀「摂津国武庫郡阿本村の小石棺について」『考古学雑誌』3-11 1913
- (27) 計3に同じ

- (28) 村上賢治他『神戸市東灘区深江北町遺跡（II）』 兵庫県教育委員会 1991  
山本雅と編『深江北町遺跡第9次埋蔵文化財発掘調査報告書』 神戸市教育委員会 2002
- (29) 竹村忠洋編『津知道跡第17地点発掘調査報告書』 芦屋市教育委員会 1999
- (30) 菊池義夫・神野信「住吉宮町遺跡第23次調査」『平成8年度神戸市埋蔵文化財年報』 神戸市教育委員会 1999
- (31) 須藤宏「魚崎郷古酒蔵群第3次調査」『平成19年度神戸市埋蔵文化財年報』 神戸市教育委員会 2010
- (32) 黒田恭正「御影郷古酒蔵群第4次調査報告書」 神戸市教育委員会 2007
- (33) 井尻格「住吉川上流域水車群八耕場水車群確認調査」『平成18年度神戸市埋蔵文化財年報』 神戸市教育委員会 2009



図3 調査地周辺の地形図 (Scale1 : 10,000) 明治18年測量仮製図

### 3. 郡家遺跡における発掘調査

郡家遺跡においては現在までに85次にわたる発掘調査が実施されてきた。

#### 大蔵地区

第1次調査<sup>(1)</sup>は昭和54年度に宅地造成に伴う調査で、一辺1m前後の掘形をもつ奈良時代から平安時代の掘立柱建物数棟と弥生時代後期の遺物包含層が確認された。建物うち1棟は、3間×4間で西側に庇をもつ構造をもつものである。

昭和62年度に実施された第2次調査<sup>(2)</sup>では、奈良時代から平安時代の掘立柱建物2棟が検出され、また、弥生時代後期の自然流路が確認されている。これらの建物址は、第1次調査の成果と併せて「菟原郡衙」の存在を推定する結果となった。また、同年度に実施された第3次調査<sup>(3)</sup>では、トレンチ調査のため全体を把握するには至っていないが、平安時代頃の大型の掘形をもつ柱穴、弥生時代後期と古墳時代の竪穴住居と想定される落ち込み状構造を確認している。

また、第1次と第2次調査地に挟まれた第4次調査<sup>(4)</sup>は、共同住宅の基礎部分のみの限定した調査ではあったが、7世紀代から平安時代後期の遺構面と弥生時代中期から後期の自然流路を確認している。第1遺構面で長方形の掘形をもつ柱穴を確認したことは、大蔵地区における奈良時代から平安時代の掘立柱建物の存在を裏付ける意義深い調査となった。

大蔵地区的南端で、平成10年度に実施された第7次調査<sup>(5)</sup>では、飛鳥時代の掘立柱建物3棟を検出し、菟原郡衙に先行する時代の遺物の存在に大変興味深い成果となった。また、弥生時代後期の竪穴住居3棟が確認されていることから弥生時代の居住域を考える上で重要な資料となった。

#### 城ノ前地区

当調査地周辺に限って概観してみると、昭和57年度天神川改修工事中に弥生時代の遺物包含層が確認されたことを契機に始まった調査<sup>(6)</sup>では、弥生時代の方形周溝遺構、弥生土器や古墳時代の須恵器を含む自然流路を検出している。昭和58年度から始まった都市計画道路山手幹線・弓場線建設工事に伴う発掘調査の城ノ前地区第3次調査<sup>(7)</sup>では、弥生時代の自然流路と方形周溝墓を確認している。昭和59年度の城ノ前地区第7次調査<sup>(8)</sup>では、弥生時代後期から中世の自然流路、弥生時代後期の竪穴住居址、古墳時代中期から後期の竪穴住居址・掘立柱建物等が検出されている。

#### 註

- (1) 神戸市教育委員会「郡家大蔵遺跡（昭和53・54年度）」「地下にねむる神戸の歴史展」 1980  
神戸市教育委員会「郡家大蔵遺跡」現地説明会資料 1979
- (2) 丸山潔「郡家遺跡・大蔵地区第2次調査」『昭和62年度神戸市埋蔵文化財年報』 1990
- (3) 前田伸久「郡家遺跡・大蔵地区第3次調査」『昭和62年度神戸市埋蔵文化財年報』 1990
- (4) 山本雅和・阿部敬生「郡家遺跡（大蔵地区）」『平成元年度祥戸古埋蔵文化財年報』 1992
- (5) 菅本宏明・中村大介他「郡家遺跡大蔵地区第7次調査」『平成10年度神戸市埋蔵文化財年報』 2001
- (6) 西岡巧次「郡家遺跡」『昭和57年度神戸市埋蔵文化財年報』 1985
- (7) 西岡巧次・西岡誠司「天神川遺跡」『昭和58年度神戸市埋蔵文化財年報』 1986
- (8) 内岡巧次「郡家遺跡・城の前地区第7次調査」『昭和59年度神戸市埋蔵文化財年報』 1987



図4 郡家遺跡調査位置図 (Scale1: 2,500) ※御影中町の調査地点は省く

〔番号は調査次数〕

## 1.はじめに

次数	年度	旧次数	調査主体	所在地	開始日	終了日	調査面積 (m <sup>2</sup> )	主な調査内容	参考文献
1	S54	大蔵1次	神戸市教育委員会	御影町郡家字大蔵	19780301	19790407	110	弥生時代後期の遺物包含層、奈良～平安時代の掘立柱建物	1
2	S56	郡家中町1次	神戸市教育委員会	御影町中町6丁目	19811214	19811231	120	古墳時代後期の祭祀土坑、奈良～平安時代の柱穴、鎌倉時代の柱穴	2
3	S57	城ノ前	神戸市教育委員会	御影町御影字城ノ前	19821005	19821116	216	弥生時代の河道・方形周溝構造、奈良時代の柱穴	3
4-1	S58	地蔵元1次	神戸市健康教育公社	御影町御影字地蔵元	19830615	19830817	510	弥生時代～中世の河道、鎌倉時代の土塙	4
4-2	S58	城ノ前1次	神戸市健康教育公社	御影町御影字城ノ前	19830625	19831210	600	弥生時代～中世の河道	
4-3	S58	城ノ前2次	神戸市健康教育公社	御影町御影字城ノ前	19830916	19830916			5
4-4	S58	地蔵元2次	神戸市健康教育公社	御影町御影字地蔵元	19831004	19831006			
4-5	S58	城ノ前3次	神戸市健康教育公社	御影町御影字城ノ前	19831017	19831124	430	弥生時代後期の方形周溝溝、弥生時代の自然流路	4
4-6	S58	城ノ前4次	神戸市健康教育公社	御影町中町3丁目	19831201	19840331	900	中世の動物足跡	5
5	S58	城ノ前4次	神戸市教育委員会	御影町御影字城ノ前	19840109	19840331	780	弥生時代の円周溝溝、古墳時代の堅穴住居、平安時代の掘立柱建物	4
6-1	S59	城ノ前5次	神戸市健康教育公社	御影町御影字城ノ前	19840401	19840412	184	弥生～古墳時代の河道、弥生時代の溝	
6-2	S59	郡家中町3次	神戸市健康教育公社	御影町中町3丁目	19840413	19840531			
7	S59	千本山1次	神戸市教育委員会	御影町御影字千本山	19840420	19840423			
8-1	S59	城ノ前6次	神戸市健康教育公社	御影町御影字城ノ前	19840604	19840907	307	弥生時代後期の円周溝溝溝、古墳時代後期の堅穴住居、平安時代の土坑	
8-2	S59	城ノ前7次	神戸市健康教育公社	御影町御影字城ノ前	19840618	19850329	1472	弥生時代の河道、古墳時代後期の堅穴住居・擬立柱建物	5
8-3	S59	地蔵元3次	神戸市教育委員会	御影町郡家字地蔵元	19841014	19841014			
8-4	S59	城ノ前8次	神戸市健康教育公社	御影町御影字城ノ前	19850108	19850124	315	近世以降の石塁	5
8-5	S59	城ノ前11次	神戸市健康教育公社	御影町御影字城ノ前	19850322	19850331	74	古墳時代後期の堅穴住居	
9	S59	城ノ前8次	神戸市教育委員会	御影町御影字城ノ前	19841108	19841111			
10	S60	岸本1次	神戸市教育委員会	御影町御影字岸本	19850605	19850729	400	古墳時代後期の堅穴住居・掘立柱建物、中世の採石遺構	
11-1	S60	城ノ前12次	神戸市スポーツ教育公社	御影町御影字城ノ前	19850701	19850807	155	弥生時代末の土番堆集、古墳時代中期の堅穴住居、鎌倉～室町時代の掘立柱建物	
11-2	S60	城ノ前13次	神戸市スポーツ教育公社	御影町御影字城ノ前	19850801	19850827	288	古墳時代後期の堅穴住居・土坑・柱穴	
11-3	S60	城ノ前14次	神戸市スポーツ教育公社	御影町御影字城ノ前	19850827	19851215	576	弥生時代後期の堅穴住居・河道、古墳時代中葉～後期の堅穴住居・掘立柱建物	
11-4	S60	城ノ前15次	神戸市スポーツ教育公社	御影町御影字城ノ前	19851118	19851227	217	古墳時代の堅穴住居・溝	
11-5	S60	城ノ前16次	神戸市スポーツ教育公社	御影町御影字城ノ前	19860109	19860214	252	古墳時代の掘立柱建物、鎌倉時代の溝・土坑・柱穴	
12	S61	下山田1次	神戸市教育委員会	御影町御影字下山田	19860430	19850902	190	古墳時代後期の掘立柱建物	
13	S61	城ノ前17次	神戸市教育委員会	御影町御影字城ノ前	19860602	19860710	192	弥生～古墳時代の河道、弥生時代の住居、古墳時代の堅穴住居	
14-1	S61	城ノ前18次	神戸市教育委員会	御影町御影字城ノ前	19860608	19860830	180	古墳時代後期の堅穴住居・室町時代の濠状遺構	
14-2	S61	城ノ前19次	神戸市教育委員会	御影町御影字城ノ前	19860627	19860722	122	弥生時代後期～古墳時代後期の河道	
14-3	S61	城ノ前21次	神戸市教育委員会	御影町御影字城ノ前	19860710	19860717	160	古墳時代後期の堅穴住居・掘立柱建物	
14-4	S61	城ノ前22次	神戸市教育委員会	御影町御影字城ノ前	19860730	19860907	320	古墳時代後期の掘立柱建物、鎌倉～室町時代の遺構群	
14-5	S61	上山田1次	神戸市教育委員会	御影町御影字上山田	19860826	19860903	180	遭難なし	
14-6	S61	城ノ前23次	神戸市教育委員会	御影町御影字城ノ前	19870108	19870224	380	古墳時代後期の堅穴住居・鎌倉～室町時代の掘立柱建物	
15	S61	城ノ前19次	神戸市教育委員会	御影町御影字城ノ前	19860613	19860704	130	弥生時代末～古墳時代初の堅穴住居	
16	S62	下山田2次	神戸市教育委員会	御影町御影字下山田	19870402	19870410	60	平安時代の掘立柱建物	
17	S62	城ノ前24次	神戸市教育委員会	御影町御影字城ノ前	19870408	19870613	600	弥生時代の堅穴石塁、古墳時代の堅穴住居・掘立柱建物、鎌倉時代の堅穴住居	
18	S62	城ノ前25次	神戸市教育委員会	御影町御影字城ノ前	19870413	19870606	700	弥生時代後期・古墳時代の土坑・ピット	
19	S62	下山田3次	神戸市教育委員会	御影町御影字下山田	19870414	19870430	500	弥生時代後期の遺物包含層	
20	S62	大蔵2次	神戸市教育委員会	御影町郡家字大蔵	19870618	19870722	840	弥生時代の流路、平安時代の掘立柱建物	
21-1	S62	城ノ前26次	神戸市教育委員会	御影町御影字城ノ前	19870622	19870728	150	古墳時代中期の堅穴住居・ピット	
21-2	S62	城ノ前27次	神戸市教育委員会	御影町御影字城ノ前	19870729	19870910	420	中世の土坑・ピット	
21-3	S62	城ノ前28次	神戸市教育委員会	御影町御影字城ノ前	19871118	19871119	240	文化財なし	
22	S62	大蔵3次	神戸市教育委員会	御影町郡家字大蔵	19870721	19870916	320	弥生時代の住居、平安時代の柱穴	
23	S62	岸本2次	神戸市教育委員会	御影町御影字岸本	19870924	19870931	60	弥生時代後期の堅穴住居	
24	S62	地蔵元3次	神戸市教育委員会	御影町郡家字地蔵元	19870911	19870919	700	古墳時代後期の堅穴住居・掘立柱建物・溝・土坑・ピット	
25	S63	郡家中町4次	神戸市教育委員会	御影町中町2丁目	19880427	19880621	200	古墳時代中期の堅穴住居・古墳時代後期の土坑	
26	S63	城ノ前29次	神戸市教育委員会	御影町御影字城ノ前	19880729	19880726	38	弥生時代後期の堅穴住居・古墳時代中期の堅穴住居	9
27	S63	郡家中町5次	神戸市スポーツ教育公社	御影町中町5丁目	19880808	19881203	1000	縄文時代早期の土坑・溝・ピット	10
28	H元	大蔵4次	神戸市教育委員会	御影町郡家字大蔵	19890515	19890531	80	弥生時代中期末～後期半の自然流路、平安時代前期の土坑・ピット	11
29	H元	郡家中町4次	大和トキメキ探査団	御影町中町2丁目	19890601	19891130	235	古墳時代の建築物・柱穴・溝・平安時代の土坑墓	12
30	H元	篠ノ坪1次	神戸市教育委員会	御影町御影字篠ノ坪	19890717	19890718	10	弥生時代～古墳時代の流路	11
31	H2	城ノ前	西家遺跡調査団	御影町御影字城ノ前	19900117	19900511	3200	中世の石組暗渠	13
32	H2	城ノ前	西家遺跡調査団	御影町御影字城ノ前	19900423	19900731	360	中世の石組暗渠・土坑	14
33	H2	城ノ前	高山歴史学研究所	御影町御影字城ノ前	19901101	19910131	800	室町時代の土坑・中世末の石組暗渠	15

表1 郡家遺跡既往調査一覧表(1)

次数	年度	旧次数	調査主体	所 在 地	開始日	終了日	調査面積 (㎡)	主な調査内容	参考文献
34	H2	城ノ前30次	神戸市教育委員会	御影町御影字城ノ前	19901127	19901213	150	古墳時代の溝・土坑、鎌倉時代の溝・土坑	16
35	H2	城ノ前	妙見山遺跡調査会	御影町御影字城ノ前	19910326	19910331	270	弥生時代の掘立柱建物・土坑・溝	17
36	H3	篠ノ坪2次	神戸市教育委員会	御影町御影字篠ノ坪	19910402	19910607	320	弥生時代後期の流路、古墳時代初頭の堅穴住居	
37	H3	篠ノ坪3次	神戸市教育委員会	御影町御影字篠ノ坪	19910402	19910502	84	弥生時代後期の流路、鎌倉時代の土坑	17
38	H3	菅原町5次	神戸市教育委員会	御影町中町2丁目	19910628	19910927	256	古墳時代後期の堅穴住居・流路・土坑、奈良～平安時代の土坑・溝	
39	H3	篠ノ坪4次	神戸市ボーネル登記公社	御影町御影字篠ノ坪	19911105	19911115	60	古墳時代後期の溝	
40	H3+4	篠ノ坪5次	神戸市教育委員会	御影町御影字篠ノ坪	19920204	19920416	140	弥生時代後期の流路、古墳時代中・後期の堅穴住居、中世のピット	
41	H3+4	篠ノ坪6次	神戸市教育委員会	御影町御影字篠ノ坪	19920302	19920507	120	弥生時代後期の流路、古墳時代中・後期の堅穴住居	
42-1	H4	篠ノ坪7次	神戸市教育委員会	御影町御影字篠ノ坪	19920609	19920612	20	古墳時代の流路	
42-2	H4	篠ノ坪8次	神戸市教育委員会	御影町御影字篠ノ坪	19921110	19921112	30	古墳時代前期の流路、古墳時代の土坑	
43	H4	篠ノ坪9次	神戸市教育委員会	御影町御影字篠ノ坪・並ノ前	19930310	19930317	12	範囲確認調査	
44	H5	篠ノ坪10次	六甲山麓遺跡調査会	御影町御影字篠ノ坪	19930422	19930621	340	古墳時代の掘立柱建物	19
45	H5	下山田4次	神戸市教育委員会	御影町御影字下山田	19930628	19931008	535	弥生時代後期～古墳時代後期の流路、7世紀代の古墳、中世の掘立柱建物	
46	H5	篠ノ坪11次	神戸市教育委員会	御影町御影字篠ノ坪	19930924	19931014	30	古墳時代前期・中期の流路、韓式土器	20
47-1	H5	篠ノ坪12次	神戸市スポーツ振興公社	御影町御影字篠ノ坪	19931028	19931102	15	古墳時代前期の溝	
47-2	H5	城ノ前31次	神戸市教育委員会	御影町御影字城ノ前	19940302	19940307	20	古墳時代後期の堅穴住居・土坑・ピット	
48	H6	岸本3次	神戸市スポーツ振興公社	御影町御影字岸本	1995106	19950116	120	掘立柱建物・溝・土坑	21
49	H7	大蔵5次	神戸市教育委員会	御影町郡家字大蔵	19950713	19950721	55	古墳時代のピット・中世の溝・ピット	
50	H7	城ノ前32次	神戸市教育委員会	御影町御影字城ノ前	19960727	19960814	272	弥生時代後期～近世の自然流路	
51	H7	篠ノ坪13次	神戸市教育委員会	御影町御影字篠ノ坪	19950821	19950920	250	古墳時代前期・中期の流路、韓式土器	
52	H7	城ノ前33次	神戸市教育委員会	御影町御影字城ノ前	19950928	19951117	300	古墳時代初期の堅穴住居・古墳時代後期の堅穴住居・掘立柱建物	
53	H7	篠ノ前34次	神戸市教育委員会	御影町御影字城ノ前	19951204	19951206	140	古墳時代～中世の自然流路	
54	H8	篠ノ坪14次	神戸市教育委員会	御影町御影字篠ノ坪	19960510	19960725	770	古墳時代の堅穴住居	
55	H8	菅原町6次	神戸市教育委員会	御影町中町2丁目1278	19960708	19960904	310	中世～近世の土坑・ピット	23
56	H9	城ノ前36次	神戸市教育委員会	御影町御影字城ノ前142-3	19970728	19970825	32	弥生時代後期～中世の土坑・落ち込み・ピット	
57	H9	城ノ前35次	神戸市教育委員会	御影町御影字城ノ前145-1	19970728	19971013	271	弥生時代後期の堅穴住居・古墳時代後期の堅穴住居・掘立柱建物	
58	H9	城ノ前37次	神戸市教育委員会	御影町御影字城ノ前148-6	19970820	19970919	50	古墳時代後期の堅穴住居・平安時代前期の掘立柱建物	
59	H9	城ノ前38次	神戸市教育委員会	御影町御影字城ノ前147-2	19970824	19971216	383	弥生時代後期の土坑・溝・柱穴・古墳時代中期の流路	
60	H9	大蔵6次	神戸市教育委員会	御影町御影字大蔵10-4	19980312	19980324	80	旧河道	
61	H10	大蔵7次	神戸市教育委員会	御影町郡家字大蔵24	19980423	19980715	670	奈良時代以前の建物址	
62	H10	城ノ前39次	神戸市教育委員会	御影町御影字城ノ前442-1	19980605	19981005	216	弥生時代後期～古墳時代の土坑・ピット	
63	H10	郡家町7次	神戸市教育委員会	御影町中町2丁目	19980617	19980904	372	古墳時代後期の柱穴・中世の掘立柱建物	
64	H10	城ノ前40次	神戸市教育委員会	御影町御影字城ノ前473-4	19980607	19980929	360	古墳時代後期の土坑・ピット・中世の流路	
65	H11		神戸市教育委員会	御影町御影半上山647-他	19991109	19991119	100	古墳時代後期の堅穴住居・掘立柱建物・溝・飛鳥時代の溝	26
66	H12		神戸市教育委員会	御影町御影字岸本145-14	20000222	20000704	35	弥生時代後期～古墳時代前期の溝・落ち込み・ピット	
67	H12		神戸市教育委員会	御影町御影字岸本148-5	20000908	20000930	230	古墳時代後期の落ち込み・平安時代前期の掘立柱建物・溝	27
68	H12		神戸市教育委員会	御影町御影字岸本1557	20000825	20000830	65	古墳時代の遺物	
69	H12		神戸市教育委員会	御影町中町2丁目1282-7	20001116	20001128	27	古墳時代中期～後期の土坑・溝・柱穴・古墳時代中期の流路	
70	H13		神戸市教育委員会	御影町中町1丁目961	20011003	20011101	254	古墳時代の掘立柱建物・水田・奈良・平安時代の掘立柱建物	
H13-1	H13		神戸市教育委員会	御影町御影字岸本1436-2	20020318	20020326	90	中世の段落ち	28
71	H14		神戸市教育委員会	御影町御影字岸本1446-6	20020623	20020606	130	弥生時代後期～庄内期の堅穴住居・溝・土坑・ピット	
72	H14		神戸市教育委員会	御影町御影字岸本151-1	20020701	20020725	200	古墳時代後期の堅穴住居・溝・土坑・ピット	29
73	H15		神戸市教育委員会	御影町御影字岸本174-4	20030506	20030605	200	弥生時代後期から古墳時代後期の堅穴住居・古墳時代後期の流路	30
74	H15		神戸市教育委員会	御影町御影字岸本1740-12	20030513	20030605	90	古墳時代の溝・土坑・ピット・古墳時代後期の流路	
75	H15		岡 田 哲	御影町御影字岸本1465-他	20030616	20030813	900	弥生時代後期の流路・掘立柱建物・古墳時代後期の奈良土坑・掘立柱建物	31
76	H15		神戸市教育委員会	御影町御影字岸本2031125	20031225	60	弥生時代末の溝・土坑・中世の落ち込み・柱穴	30	
77	H15		村 尾 政 人	御影町中町4丁目1243	20040301	20040630	1550	古墳時代の堅穴住居・掘立柱建物・祭祀遺構	32
78	H16		神戸市教育委員会	御影町御影字岸本1477-17	20040405	20040408	20	自然地形による落ち込み	33
79	H16		神戸市教育委員会	御影町御影字岸本1477-1	20050207	20050218	40	古墳時代後期の溝・土坑・ピット	
80	H17		神戸市教育委員会	御影町中町2丁目1258-1・他	20050609	20050615	35	古墳時代後期の溝	34
81	H18		神戸市教育委員会	御影町御影字岸本1477-17	20060812	20080714	240	古墳時代後期の堅穴住居・土坑・ピット・平安時代の落ち込み	35
82	H18		神戸市教育委員会	御影町御影字岸本1477-8	20060905	20061106	400	古墳時代中期の流路・古墳時代後期の堅穴住居・掘立柱建物	
83	H19		神戸市教育委員会	御影町中町3丁目	20070409	20070824	4950	古墳時代中期の堅穴住居・水田・土坑・奈良時代の掘立柱建物	36
84	H20		神戸市教育委員会	御影町御影字岸本1454-10	20090706	20090812	134	古墳時代後期の堅穴住居・溝・室町時代の土坑・江戸時代の桙石杭	37
85	H20		神戸市教育委員会	御影町御影字岸本1477-2	20091026	20091218	510	弥生時代後期～古墳時代の自然河道・奈良～平安時代の掘立柱建物	38

表2 郡家遺跡既往調査一覧表(2)

## 既往調査参考文献一覧

- 1 「郡家大蔵遺跡」現地説明会資料 神戸市教育委員会 1979
- 2 「郡家中町遺跡」『昭和56年度神戸市埋蔵文化財年報』神戸市教育委員会 1983
- 3 「郡家遺跡」『昭和57年度神戸市埋蔵文化財年報』神戸市教育委員会 1985
- 4 「郡家遺跡（城の前・地蔵元地区）、天神川遺跡」『昭和58年度神戸市埋蔵文化財年報』神戸市教育委員会 1986
- 5 「郡家遺跡（城ノ前地区第5・6・7・9・11次）」『昭和59年度神戸市埋蔵文化財年報』神戸市教育委員会 1987
- 6 「郡家遺跡（城ノ前地区第12～16次）、岸本地区」『昭和60年度神戸市埋蔵文化財年報』神戸市教育委員会 1988
- 7 「郡家遺跡（城ノ前17～23次、下山田1次）」『昭和61年度神戸市埋蔵文化財年報』神戸市教育委員会 1989
- 8 「郡家遺跡（城ノ前24～27次、大蔵2・3次他）」『昭和62年度神戸市埋蔵文化財年報』神戸市教育委員会 1990
- 9 「郡家遺跡（御影中町地区第2次調査）」『昭和63年度神戸市埋蔵文化財年報』神戸市教育委員会 1994
- 10 「郡家遺跡 郡家中町地区第3次調査概報」神戸市教育委員会 1999
- 11 「郡家遺跡（大蔵地区）」『平成元年度神戸市埋蔵文化財年報』神戸市教育委員会 1992
- 12 「郡家遺跡－神戸市東灘区所在 御影中町地区第4次調査』大手前女子大学史学研究所 1992
- 13 「郡家遺跡 I の発掘調査」『淡神文化財協会ニュース』創刊号 1990
- 14 「郡家遺跡の発掘調査(2)～(5)」「淡神文化財協会ニュース』2～5号 1990
- 15 実績報告書 1993
- 16 「郡家遺跡（城ノ前地区）」『平成2年度神戸市埋蔵文化財年報』神戸市教育委員会 1993
- 17 「郡家遺跡（篠ノ坪地区第2次調査他）」『平成3年度神戸市埋蔵文化財年報』神戸市教育委員会 1994
- 18 「郡家遺跡（篠ノ坪地区第5次調査他）」『平成4年度神戸市埋蔵文化財年報』神戸市教育委員会 1995
- 19 「神戸市東灘区 郡家遺跡－篠坪地区第10次調査』六甲山麓遺跡調査会 1995
- 20 「郡家遺跡（下山田地区第4次調査他）」『平成5年度神戸市埋蔵文化財年報』神戸市教育委員会 1996
- 21 「郡家遺跡（岸本地區第3次調査）」『平成6年度神戸市埋蔵文化財年報』神戸市教育委員会 1997
- 22 「郡家遺跡（城ノ前地区第32～34次調査他）」『平成7年度神戸市埋蔵文化財年報』神戸市教育委員会 1998
- 23 「郡家遺跡（御影中町地区第6次調査他）」『平成8年度神戸市埋蔵文化財年報』神戸市教育委員会 1999
- 24 「郡家遺跡（城ノ前地区第35～38次調査他）」『平成9年度神戸市埋蔵文化財年報』神戸市教育委員会 2000
- 25 「郡家遺跡（城ノ前地区第39次調査他）」『平成10年度神戸市埋蔵文化財年報』神戸市教育委員会 2001
- 26 「郡家遺跡（第65次調査）」『平成11年度神戸市埋蔵文化財年報』神戸市教育委員会 2002
- 27 「郡家遺跡（第66～69次調査）」『平成12年度神戸市埋蔵文化財年報』神戸市教育委員会 2003
- 28 「郡家遺跡（第70・71次調査）」『平成13年度神戸市埋蔵文化財年報』神戸市教育委員会 2004
- 29 「郡家遺跡（第71・72次調査）」『平成14年度神戸市埋蔵文化財年報』神戸市教育委員会 2005
- 30 「郡家遺跡（第73～75次調査）」『平成15年度神戸市埋蔵文化財年報』神戸市教育委員会 2006
- 31 「郡家遺跡第75次発掘報告書」村尾 政人 2004
- 32 実績報告書 2006
- 33 「郡家遺跡（第77次調査）」『平成16年度神戸市埋蔵文化財年報』神戸市教育委員会 2007
- 34 「郡家遺跡（第78次調査）」『平成17年度神戸市埋蔵文化財年報』神戸市教育委員会 2008
- 35 「郡家遺跡（第81・82次調査）」『平成18年度神戸市埋蔵文化財年報』神戸市教育委員会 2009
- 36 「郡家遺跡第81・82次発掘調査報告書」神戸市教育委員会 2008
- 37 「郡家遺跡（第84次調査）」『平成20年度神戸市埋蔵文化財年報』神戸市教育委員会 2011
- 38 「郡家遺跡第85次発掘調査報告書」神戸市教育委員会 2011（本省）

#### 4. 第85次調査の経緯と経過

##### 調査に至る経緯

今回の調査対象地において、神鋼不動産株式会社より届山された「ジークレフ御影城ノ前」の共同住宅新築工事計画に基づき、平成21年6月24日に埋蔵文化財試掘調査依頼書が提出された。同年8月3日に実施した試掘調査により、4ヵ所の試掘坑で古墳時代の遺物包含層が確認され、8月4日付けで申請対象地域において発掘調査が必要である旨の回答が出された。

10月7日に神鋼不動産株式会社より発掘調査依頼書が提出され、埋蔵文化財調査事業に関する委託契約を株式会社島田組と締結している。

今回の発掘調査に先立ち、文化財に影響のない現地表下1mまでを先行して上取り作業を行い、その後、事業面積1045.58m<sup>2</sup>のうち処物工事で遺跡が損壊を受ける部分の約510m<sup>2</sup>について調査対象として全面発掘調査を実施することとなった。

##### 調査組織

(平成21・22年度)

神戸市文化財保護審議会委員（史跡・考古担当）

工業 善通 大阪府立狭山池博物館館長

和田 晴吾 立命館大学文学部教授

神戸市教育委員会事務局

教育長 橋口 秀志

社会教育部長 大寺 直秀

教育委員会参事 柏木 一孝

（文化財課長事務取扱）

社会教育部主幹 渡辺 伸行

（埋蔵文化財センター所長事務取扱）

埋蔵文化財指導係長 丸山 潔

埋蔵文化財調査係長 千種 浩

文化財課主任 丹治 康明

文化財課主査 安田 滋

文化財課主査 斎木 巍

調査担当学芸員 井尻 格

遺物整理担当学芸員 黒田 恭正 佐伯 二郎（平成21年度）

同 西岡 誠司（平成22年度）

##### 調査の経過

発掘調査作業は場内において掘削残土を仮置きするため、東西を2分割して先に東半分の調査を行い、反転後に残りの西半分について実施した。10月26日に1区と2-1区の重機掘削を開始している。試掘調査の結果に基づいて、埋蔵文化財に影響のない深度まで重機掘削を行い、その後人力による遺構検出及び遺構掘削を行っている。11月13日に調査区東半の調査が完了したため、順次埋め戻しを開始した。11月18日に調査区西半（2-2区）の掘削を開始している。調査区反転後、2時期の遺構面において調査完了後、12月14日に埋め戻しを開始するとともに、敷地北西隅に設定している3区の掘削を開始した。12月18日に3区の調査完了とともに、即日埋め戻しを行っている。12月21日に現地の引渡しを行い、現地調査は終了している。

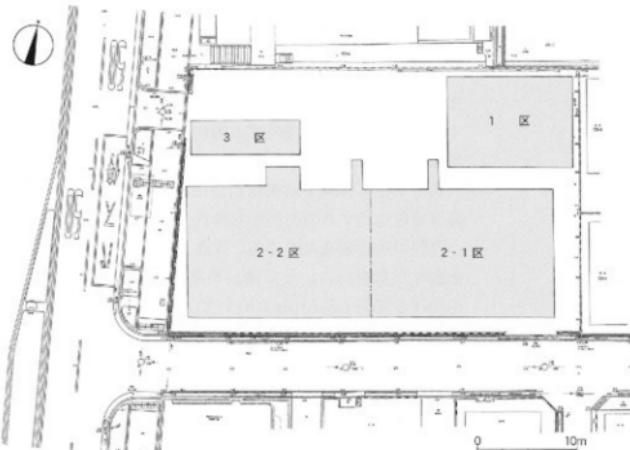


図5 調査区設定図



写真2 調査地近景



写真3 重機掘削風景

#### 遺物整理作業

出土土器の整理作業は、神戸市埋蔵文化財センターにおいて28ℓコンテナ6箱の土器の水洗作業を実施している。土器洗浄後は、出土事項を表すマーキングを施し、接合ならびに石膏による補強・補填を行い、一部の土器には補彩を行っている。土器は担当者が実測作業を行い、埋蔵文化財センター内において写真撮影を行っている。

上記の遺物の整理後、現地で実測した遺構平面図と撮影した写真を構成して『郡家遺跡第85次発掘調査報告書』を刊行している。



写真4 遺物整理作業風景

## II. 調査の成果

### 1. 基本層序

今回の調査地においては、市街地化されているものの以前に大型の建物のあった痕跡がなく、また擾乱も少なく遺構面の遺存状態も良好であった。

基本層序については、調査区東側と西側では層位高が異なるため東側について概観したいと思う。層序は、昭和50年代に行われた区画整理の際の盛土が0.8～1mあるため敷地東側の標高は約30mを測る。その下に中世から現代の耕土層が3～4層存在している。地表面下1.4～1.6mでさらに灰茶色粗砂質土～茶褐色粗砂の洪水砂が50～80cmの厚さで数層に分かれて堆積している。第1遺構面を形成する黒褐色シルト層は、地表面下1.9～2.5mとなる。この土層は第2遺構面上の遺物包含層で、古墳時代後期と弥生時代後期の遺物を含んでいる。調査地北東側の標高は28.5m、南側で27.3mを測る。第2遺構面は暗黄茶色砂質上の地山となる。敷地北東側の標高は28.2m、南側で27.2mを測る。地形的には北東から南西方向に向かって緩やかに傾斜していく地形である。



写真5  
調査区東壁土層断面



写真6  
調査区西壁土層断面

## II. 調査の成果

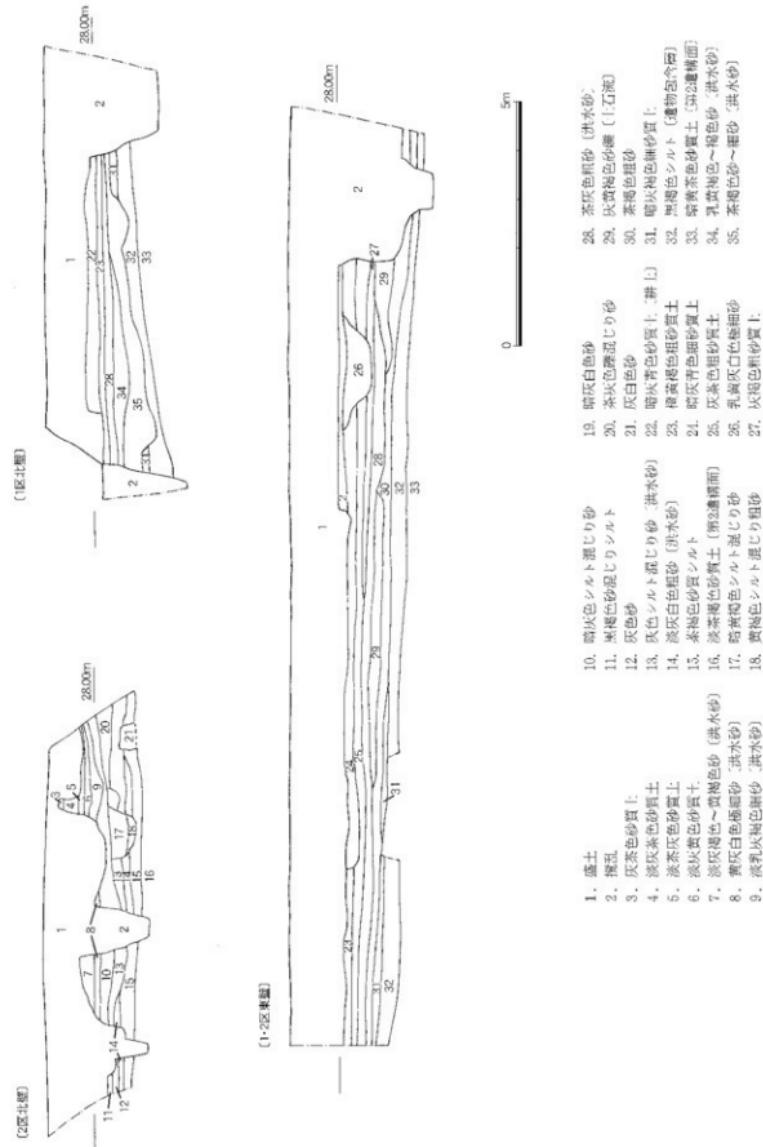


図6 1:2区北壁及ひび東壁土層断面図

## 2. 遺構の概要

### 第1 遺構面

本調査地の標高は東側で約30m、西側では約29mを測り、北東から南西にむかって緩やかに傾斜する扇状地上端面に立地している。

第1 遺構面は洪水砂を除去した遺構面である。この洪水砂は調査区全域を覆っており、この遺構面の遺物包含層は洪水砂の影響で皆無であった。第1 遺構面は標高27.3～28.5mを測る古墳時代後期から平安時代の黒褐色シルト層の遺構面である。この面においても北東から南に向かって傾斜していることが判る。

1 区と 2 - 1 区では、掘立柱建物1棟、柱穴・ピット等を検出した。また、2 - 2 区と 3 区では、自然河道 2 条と溝 1 条を検出している。

### 自然河道

SR101

2 - 2 区中央部で検出された南北方向の自然河道である。河道の規模は、最大幅約 5 m、検出面からの深さ 20～30cm を測る。堆積砂である暗灰白色シルト混じり砂からは古墳時代後期頃と考えられる須恵器が少量出土している。

SR102

2 - 2 区の南西側で検出された自然河道である。北西から南東方向に流れていると推定される。規模は、幅 7 m 以上であるが、南側の河道肩は調査区外になるために検出されていない。検出面からの深さ約 70 cm を測る。河道の堆積砂は乳灰白色砂～粗砂の互層であるが、堆積状況からして短期間のうちに堆積したものと考えられる。この河道からは、古墳時代後期頃の須恵器が少量出土している。

SD101

2 - 2 区と 3 区で検出された南北方向の直線的な溝である。南側は SR102 に切られている。幅 2.2～3 m、検出面からの深さ 20～35 cm を測る。溝の底の一部には、偶蹄目類と考えられる無数の足跡を確認している。遺物は、時期不明の須恵器が出土している。

### 地震痕跡

第1 遺構面を形成する黒褐色シルト面上で砂脈（割れ目）を 2 箇所確認した。1 区で検出した砂脈は、南北方向に亀裂状にのびている。最大幅約 40 cm、長さ 7.5 m 以上である。砂脈内は洪水堆積物である砂～粗砂で構成されている。2 - 1 区で検出した砂脈は 4 本で、東西方向に直線的にのびている。走向は N27° E～N29° E で、途中途切れているものもある。最大幅約 40 cm、長さ 10.3 m 以上である。

参考文献：寒川 旭「郡家遺跡にみられる地震の痕跡」

『郡家遺跡－神戸市東灘区所在・御影中町地区第4次調査－』

大手前女子大学史学研究所 1992

『発掘された地震痕跡』埋蔵文化財研究会 1996

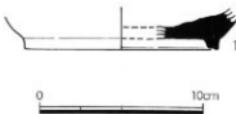


図 7 洪水砂出土遺物実測図

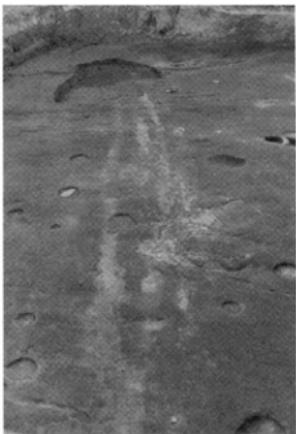


写真 7 2 - 1 区地割れ検出状況

II. 調査の成果

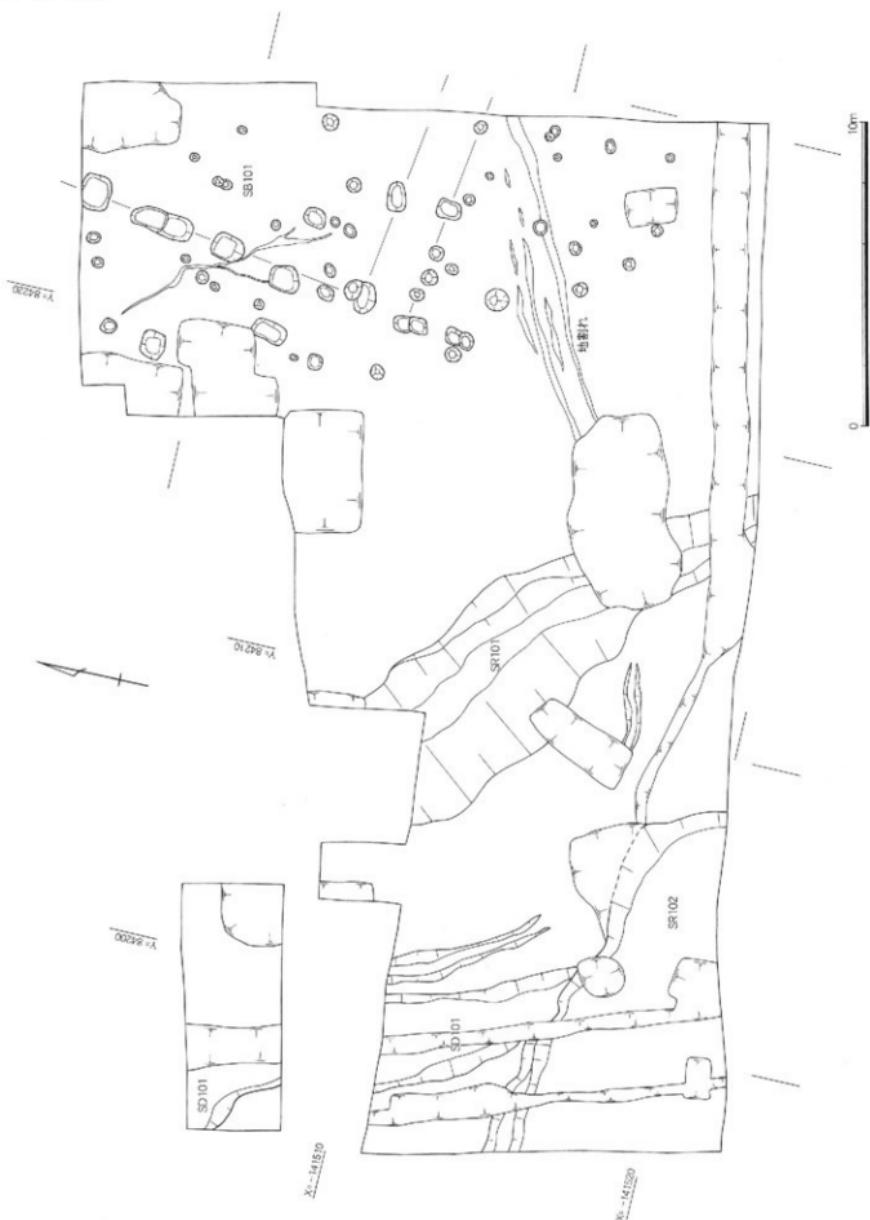


図8 第1道構面平面図

## 掘立柱建物

SB101

1区の北東側で検出した東西2間(6.5m)以上、南北4間(9.5m)以上を測る側柱の掘立柱建物と推定される。建物軸は、座標軸に対してN-9°-Eとなり、ほぼ北を指す。柱間はSP101からSP105の南北方向が2.2~2.4m、SP105とSP106の東西方向が3.6mとややばらつきがある。南側の柱列の東端柱穴は、後世の削平により痕跡を確認できなかったが、建物はさらに東へ延びているものと考えられる。

柱掘形の平面形は主に方形に近く長方形の掘形もある。掘形の規模は、長辺90~110cm、短辺60~100cmを測り、深さは15~30cmと非常に浅いため上層の洪水砂で削られている可能性がある。柱穴内の埋土は灰黄褐色砂質土もしくはこの砂質土に黒褐色シルトブロックが混じっている。いずれの柱穴にも柱痕は遺存していなかった。

## 出土遺物

この掘立柱建物の時期は、各柱穴からの出土遺物は少なく小片であるため時期については判断しにくいが、SB101出土の遺物を図化した。

2は須恵器壺蓋で口径12.2cm、残存高2.3cmを測る。天井部は欠損しているが、本来はつまみがつくと思われる。口縁端部内面にはかえりがつく。

3は口縁を欠き体部から底部のみの須恵器である。壺身は胴径94cm、残存高2.7cmを測る。これらの遺物は7世紀前半頃を想われる。

SP107~109

SB101の南柱列に平行に並ぶ柱穴を3基検出した。西端に位置する柱穴は、1辺50~80cm、深さ10~20cmで、土師器の小片が出土したが、詳細な時期については判らない。この柱列は、建物の軸方向と同じであるため付随する構造のものである底の存在を考えたい。

## その他のピット

1区と2~1区では建物以外に約50基のピットを検出した。径25~50cm、深さ8~20cmを測る。ピットの状況は散漫的で建物を構成する柱穴とは考えにくい。ピットの中から出土する遺物は小片で時期を特定することはできない。いずれの柱穴・ピットも灰黄褐色砂質土が埋土となっている。

この遺構面でのピットの検出状況を概観してみると、調査区西半では自然河道が存在するため、より安定した地盤を占地して建物を建てたと考えられる。

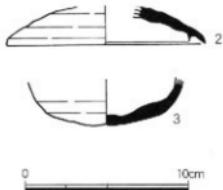


図9 SB101出土遺物実測図



写真8 SB101検出状況

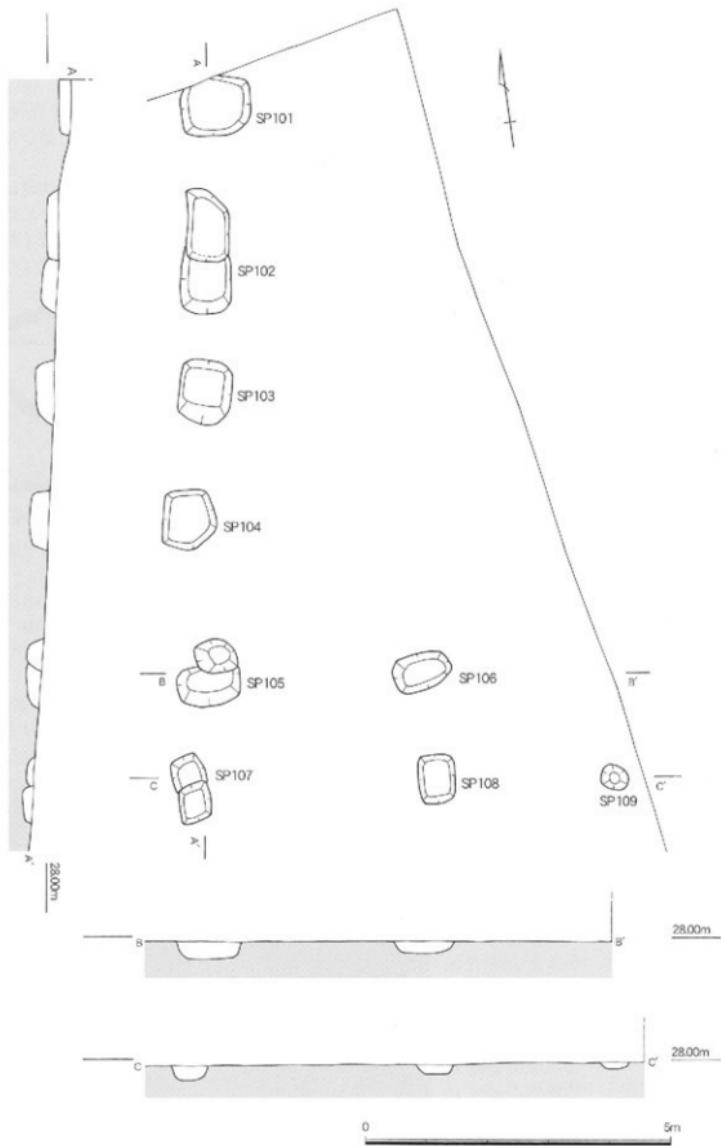


図10 SB101造構平面図

## 第2遺構面

第1遺構面を形成している黒褐色シルト層を除去すると第2遺構面である暗黄茶色砂質土の弥生時代後期の遺構面となる。この遺構面の標高は27.2~28.4mを測り、南西方向に緩やかに傾斜する地形である。

1区と2-1区では、ピット、土坑を検出した。また、2-2区では、自然河道2条と溝1条を検出している。

## ピット

1区と2-1区では、ピット22基を検出している。径25~50cm、深さ8~35cmを測るが、遺物がほとんど出土してなく時期の確定には至っていない。また、規則的な並びがなく建物を構成するものとしての可能性は低い。

## SK201

2-1区で検出された方形に近い形状の土坑である。一辺30cm、深さ25cmを測るが、黒褐色砂質シルトに地山ブロックが混じった埋土からの出土遺物はなかった。

## SX201

2-1区で検出された楕円形の落ち込みである。一辺1.6×1m、深さ8cmを測るが、出土遺物はなかった。

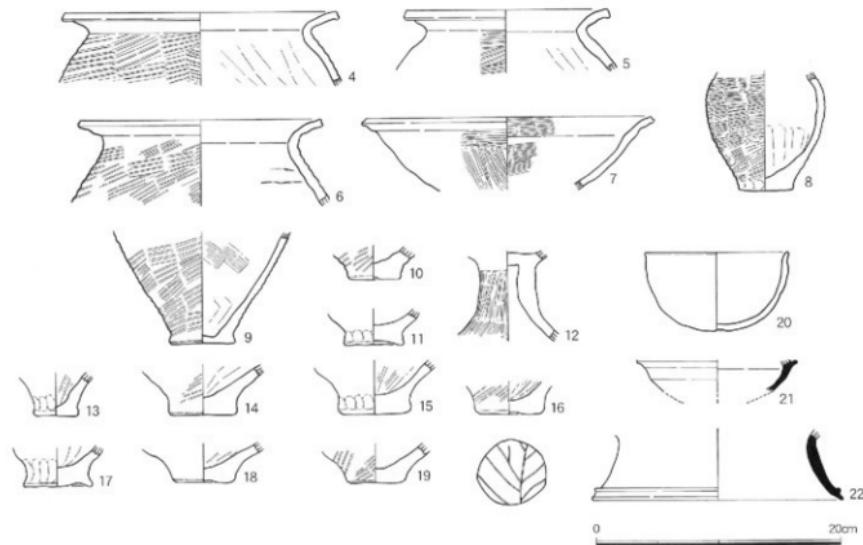


図11 黒褐色シルト層出土遺物実物図

## 出土遺物

第2遺構面を形成する黒褐色シルト層に含まれる遺物は少量である。弥生時代後期の甕・鉢・壺・高環等と古墳時代後期から奈良時代の須恵器・土師器が主に出土しているが、図化できるものを図11に図示した。

4~19は弥生土器である。4~6は口縁部のみの甕で、端部に面をもち口縁部は「く」字形に外傾してのびている。いずれも体部外面に右上がりのタタキをもつ。4は口径22.0cm、5は口径16.4cm、6は口径19.6cmを測る。

II. 調査の成果

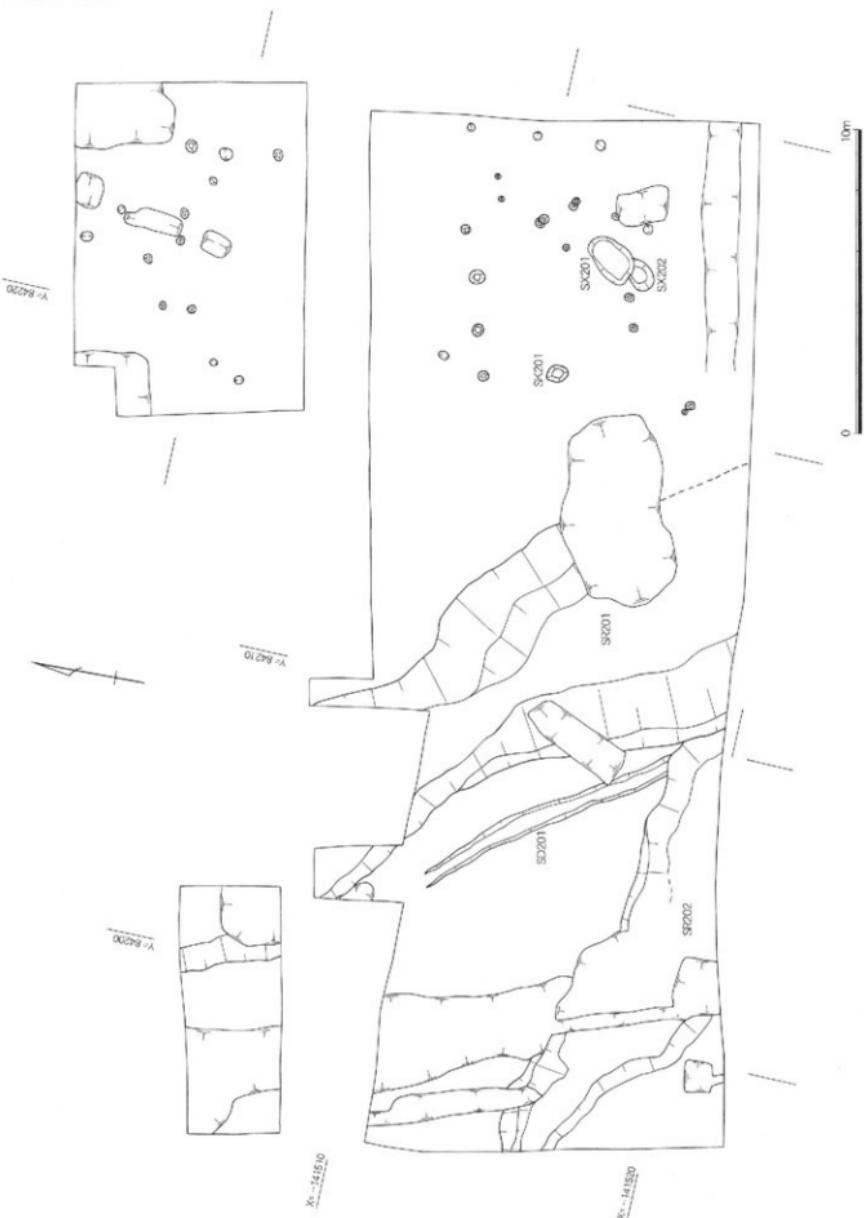


図12 第2遠構面平面図

7は口径23.2cmを測る鉢である。口縁部は外反し若干「く」字形になる。体部外面にはヘラミガキを施している。内部には板ナデ調整を施す。8は口縁部が欠損している小型の甕で、残存高9.8cm、底径4.4cmを測る。体部はやや丸みをもち外面の下部には右上がりのタタキをもつ。内面は板ナデが施される。9は甕の底部で底部5.4cm、残存高9.1cmで、体部外面は右上がりのタタキをもつ、内面は板ナデ調整が施されている。

12は高環の脚柱部である。中空の筒部から緩やかに外反して広がる円錐形の脚裾部をもつ。外面には継方向のヘラミガキが施されている。10・11・13～19は甕、壺、鉢の底部である。10は甕の底部で右上がりのタタキの調整をもつ。19は甕の底部で右上がりのタタキの調整をもつ。16は、底部外面に木葉圧痕を残す。20は口径11.6cm、器高6.5cmを測る土師器の塊である。体部内外面ともナデ調整である。21は須恵器の坏身、22は須恵器である。



図13 SR201出土遺物平・断面図

II. 調査の成果

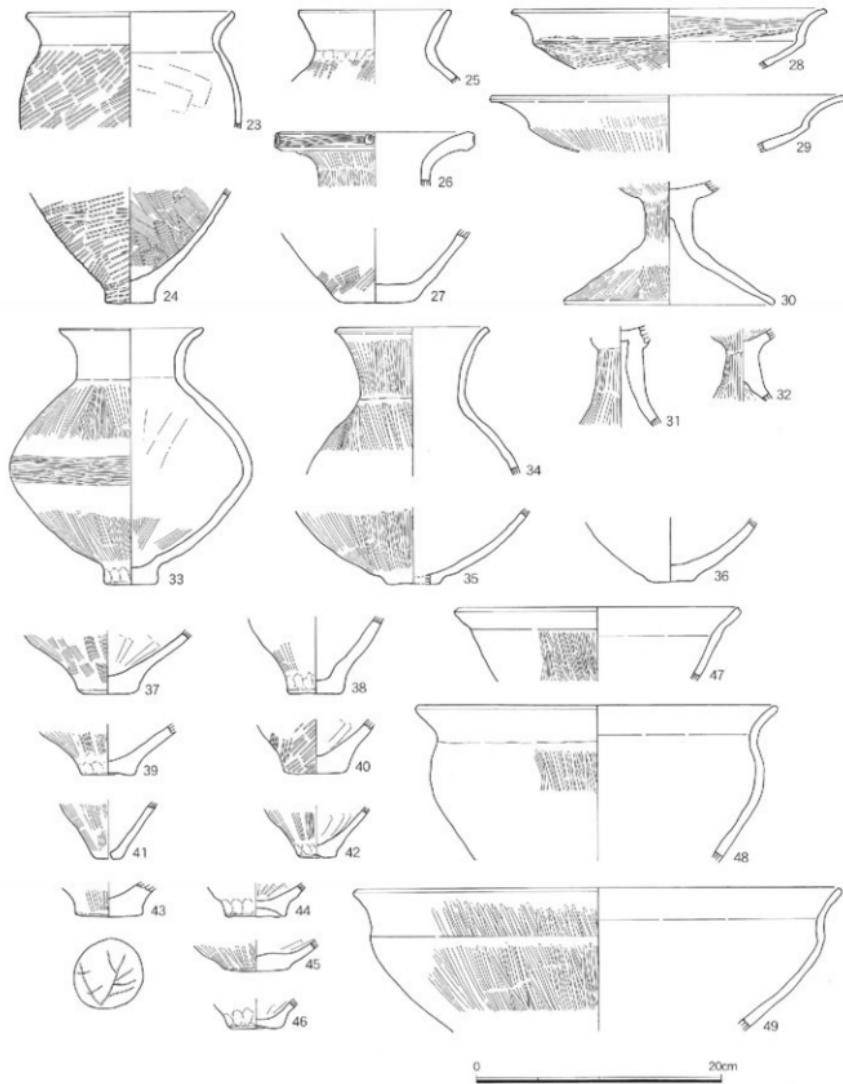


図14 SR201出土遺物実測図

SR201

2区中央部と3区で検出された南北方向の自然河道である。河道の規模は、幅約5~7.5m、検出面からの深さ35~50cmを測る。埋土となる黒褐色粘質シルトからは、弥生時代後期の遺物が出土している。

## 出土遺物

23は口径16.6cmの中型の甕である。口縁部は体部から緩やかに外反しながら延び、端部を上方につまみ上げる。体部外面をタタキで、内面を板ナデ調整で行っている。

24は底径4.0cmを測る甕で、外面は右上がりのタタキ、内面は綫方向の刷毛調整が施されている。

25は口径12.6cmの壺である。外面の一部にタタキが見られるが、内面は磨滅のため調整は不明である。

26は壺の口縁部である。口縁端部の幅広い面には波状沈線と円形浮文の装飾が施される。また体部外面はヘラミガキを施している。

28~32は高坏である。28は口径25.2cmを測る。坏部は稜をもち、外反してたちあがる口縁部をもつ。口縁端部は外方にのび平坦面をもつ。調整は内外面ともヘラミガキで丁寧な仕上げである。29は高坏の口縁部で大きく外反して広がる。体部外面はヘラミガキを施している。30は底径17.2cmの高坏脚部で、坏部を欠く。また円形の透かしを穿つが、欠損している。外面は磨滅が著しいがヘラミガキを施していると思われる。内面は磨滅のため不明である。32は坏裾部を欠く中実の高坏である。調整は綫方向のヘラミガキを施している。

33は口径11.6cm、器高21.0cmを測る広口壺である。体部外面はヘラミガキを施し、胴体部には横方向のヘラミガキを施している。内面はハケメ調整を施す。

34は口径12.0cmを測る広口壺である。外面の口縁部と体部には丁寧なヘラミガキが調整されている。

35は壺の底部と思われる。わずかに突出した底部もち、体部は球胴形を呈するものと考えられる。内面の調整は不明であるが、外面には綫方向のヘラミガキを施している。

36は壺の底部で、わずかに突出した底部を持つ、体部は球胴形を呈するものと考えられる。内面・外面の調整は磨滅のため不明である。

37~46は甕、壺、鉢の底部である。

40は甕の底部で右上がりのタタキ調整をもつ。41は有孔鉢の底部である。

43は、底部外面に木葉圧痕が見られる。44は壺の底部で内面にハケが見られる。

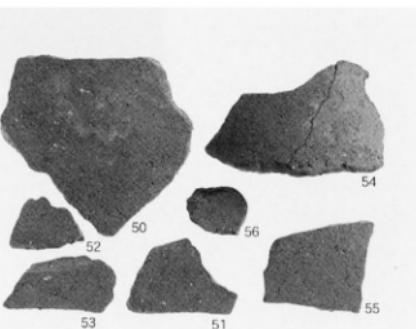


写真9 生駒西麓産弥生土器

47は口径22.6cmの鉢で、口縁部が外側にひらく内面は磨滅しているが、外面には縦方向のヘラミガキ調整で仕上げられる。

48は鉢である。内湾する体部に口縁部が体部から緩やかに外反しながら延び、端部を丸く収める。内面・外面の調整は磨滅が著しく不明である。49は口径40.0cmの大型の鉢である。頸部が屈曲した後、口縁は外反し、端部は平坦である。外面はヘラミガキである。

#### 搬入土器

50～53は黒褐色シルト層出土、54～56はSR201から出土した生駒西麓産の胎土の特徴を示す弥生土器の破片である。いずれの破片も胎土に角閃石を多量に含み器壁の厚みから同一固体と考えられる。内面・外面とも磨滅が著しく調整は不明である。

#### SR202

2-2区の南西側で検出された自然河道である。規模は、幅7m以上であるが、南側の河道肩は調査区外になるため、検出されていない。河道の埋土となる黒灰色シルト・茶褐色シルトからは少量の弥生時代後期の土器が出土している。この河道は昭和57年度調査（天神川その1）と昭和60年度調査（城ノ前地区第7次）で確認されている河道の続きと考えられ、このときの調査では弥生土器と古墳時代の須恵器・土師器が出土している。

#### SD201

2区西半で検出された直線的な溝であるが、南端は、SD202に切られている。検出長約6m、深さ13cmを測るが、埋土である灰色砂質シルトから少量の弥生時代後期の土器が出土している。



写真10 調査作業風景

### III.まとめ（集落の変遷）

最後に今回の調査における成果を踏まえて、周辺の調査結果を援用しつつ現在までに判明している郡家遺跡の集落域の推移をみていくたい。

郡家遺跡は住吉川右岸の扇状地の西側の緩斜面地に立地し、これまでの発掘調査の結果、弥生時代後期から室町時代以降まで継続的に集落が営まれてきただことが判ってきている。その多くは弥生時代後期、古墳時代後期と奈良時代～平安時代を中心におかれられている。しかし御影町の調査では弥生時代中期まで遡る遺構が確認されるなどの事実もある。今回はJR神戸線以北の城ノ前地区、篠ノ坪地区、大蔵地区等の発掘調査の成果も踏まえて集落の変遷を概観していきたいと思う。

#### 弥生時代後期～

#### 古墳時代初頭

城ノ前地区や篠ノ坪地区では弥生時代後期から古墳時代初頭の堅穴住居が散漫に確認されているが、棟数も少なく集落を形成するものではないようと思える。しかし、自然河道から出土している弥生土器は多量であるため、水害等により流失や削平を受けたものと考えたほうがよい。大蔵地区7次地点でも自然河道の近くでこの時期の堅穴住居3棟が確認されているが、この時期に該当する遺構・遺物は城ノ前地区に比べて圧倒的に少ない。しかし、今後の調査の進捗により住居の数が増加するかもしれない。

また、この時期の墓域は、天神川流域の南北方向に方形周溝墓・円形周溝墓・土器棺墓・木棺墓・集石墓が確認されているため、この付近で墓域を形成している。

#### 古墳時代

城ノ前地区や篠ノ坪地区では古墳時代中期から後期の集落が自然河道の埋没した上に形成されることが多く、水害などの災害に遭いやすい場所に占地している。自然河道から多量の遺物が出土することは、度々の洪水や土石流の発生により集落が押し流されていることを物語っている。このころの集落は、城ノ前地区と篠ノ坪地区を中心に増加傾向にあり、岸木地区1・2次地点と地蔵元地区3次地点でも堅穴住居が検出されるなど特に山手幹線と弓場線が交差する地点の北側と西側に限っては堅穴住居の検出例が多く密集している。この交差点の南側の篠ノ坪地区13次地点以南は確認されていない。南側については居住域から外れるようで、南東側にあたる大蔵地区7次地点では後期の堅穴住居1棟のみを確認している。

弓場線沿いの調査から理解できるように、天神川の流域に沿うように流下する自然河道が複雑に交錯している事実から、集落は河道縁辺部に展開していくものと考えられる。

今まで古墳時代後期の墓域は定かではなかったが、下山田地区4次地点では古墳時代後半から終末期の小石室墳が3基確認されている。これらの群集墳の存在でこの地域の墓域がこの付近に展開するものと思われる。

#### 奈良時代～

#### 平安時代

奈良時代になると、律令制度の施行に伴い、全国各地に郡衙が設置される。遺跡内に残る「郡家」と「大蔵」の地名から攝津国菟原郡衙の推定地とされてきた。

大蔵地区1～3次地点では奈良時代から平安時代に該当する掘立柱建物を検出している。大蔵地区7次地点ではこの時期に先行する飛鳥時代の掘立柱建物

3棟を確認している。また、下山田地区1・2次地点でも平安時代の建物3棟を確認している。同時期の建物や遺構は城ノ前地区では減少する傾向で集落域の中心が東側の大蔵地区や下山田地区に移ってきてていることが判る。

今回の第85次調査ではこの時期に該当すると思われる掘立柱建物1棟を検出している。自然河道の東側の場所で、先の大蔵地区の建物群の方位と近いことから一連の建物の一部と考えている。

これらの地区では比較的大きな柱掘方をもち、建物の方位を規則的にあわせるなど計画的に建てられているため、郡衙に関連する施設として位置づけられている。ただ、中心となる施設が確定しておらず、実証的な遺物が乏しいためこの付近に存在していた可能性があるということに留めておきたい。

#### 中世

鎌倉時代から室町時代では、山手幹線以北の城ノ前地区で掘立柱建物や遺構の検出例が集中している。特筆すべきものに平成元年度・2年度に行われた弓場線内調査の際に、東西方向にのびる中世末の石組暗渠が見つかり平野城との関連が示唆されている。山手幹線沿いにある忠勝寺は平野忠勝の菩提寺として知られ、「城ノ前」「滝ヶ鼻」などの字名や「大手筋」の名称がその名残といわれている。

#### おわりに

以上のように雑然と述べてきたが、今回の調査は調査地周辺の調査結果を補完する形となった。今回の調査で郡家遺跡が弥生時代後期と奈良～平安時代を中心に展開していく遺跡であったことが改めて理解できた。さらなる周辺での調査により新たな事実が期待される。



写真11 区画整理以前の御影周辺（昭和50年代航空写真）

# 写 真 図 版



1区・2-1区 第1遺構面全景（西から）

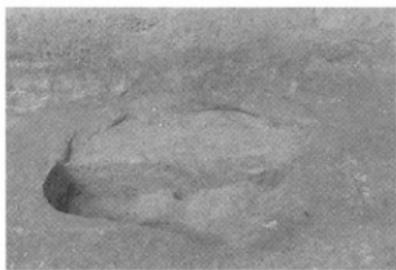


1区・2-1区 第2遺構面全景（南西から）

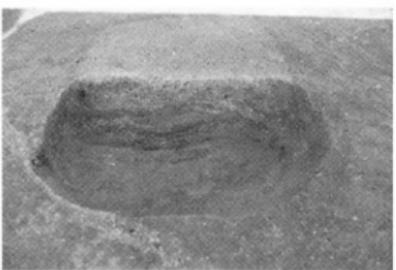
## 写真図版 2



1区北側拡張区 第1遺構面（南西から）



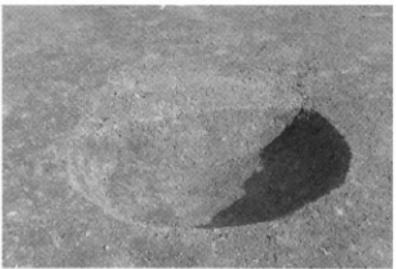
SB101 : SP101 (南から)



SB101 : SP103 (南から)



SB101 : SP104 (南から)



SB101 : SP106 (西から)

写真図版 3



2-2区 第1遺構面全景（東から）



2-2区 第1遺構面全景（北から）

## 写真図版 4



2-2区 第2遺構面全景（東から）



2-2区 第2遺構面全景（北から）

写真図版 5



SR201弥生土器出土状況（南から）



SK201土層断面（南から）

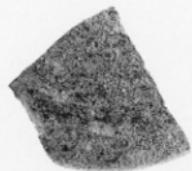
## 写真図版 6



3区 第1遺構面全景（東から）



3区 第2遺構面全景（東から）



2



8

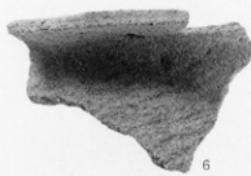


3

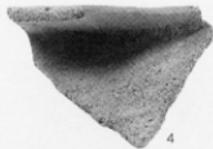


9

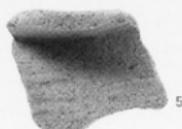
SB101出土遺物



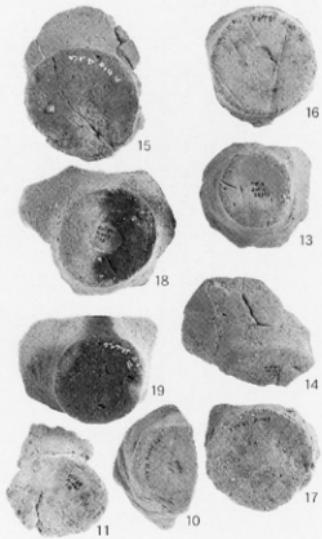
6



4



5



黒褐色シルト層出土遺物 (4 ~ 6 • 8 ~ 11 • 13~19)

写真図版 8



23



34



24



36



25



37



26



48

SR201出土遺物（1）

写真図版 9



SR201出土遺物（2）

## 報告書抄録

ふりがな	ぐんげいせき だい85じちょうさ はっくつちょうさほうこくしょ						
書名	郡家遺跡 第85次調査 発掘調査報告書						
副書名							
卷次							
シリーズ名							
シリーズ番号							
編著者名	井尻 格						
編者機関	神戸市教育委員会						
所在地	〒650-8570 兵庫県神戸市中央区加納町6丁目5番1号 TEL 078-322-6480						
発行年月日	西暦2011年3月31日						
所取遺跡名	所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯	東経	発掘期間	発掘面積 (m <sup>2</sup> )	発掘原因
郡家遺跡	兵庫県神戸市 東灘区御影町御影 字城ノ前1427番2	28101 1-5	34° 43' 20"	135° 14' 58"	2009.10.26 2009.12.18	510 (延1,000)	記録保存調査
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
郡家遺跡	集落跡	弥生時代後期 ～古墳時代	自然河道	弥生土器、須恵器、 土師器、			
		奈良時代 ～平安時代	掘立柱建物、土坑、 ピット	須恵器、土師器			
要約	今回の調査では2時期の遺構面を確認し、弥生時代後期と古墳時代後期の遺物を含む自然河道2条を検出している。第1遺構面では、過去の大蔵地区で検出している掘立柱建物と同時期と考えられる掘立柱建物1棟を確認した。菟原郡衙の時代の建物と判る資料を得ることができた。						

### 郡家遺跡 第85次調査 発掘調査報告書

2011・3・31

発行 神戸市教育委員会文化財課  
 〒650-8570 神戸市中央区加納町6丁目5番1号  
 TEL 078-322-6480

印刷 有限会社 岡印刷出版  
 〒652-0804 神戸市兵庫区塚本通3丁目1番25号  
 TEL 078-577-2243

